

4月29日(土)10時 ^{みちのえき}道の駅『^{「おもいがわ」}思川』オープン!!

～ゴールデンウィーク期間中に様々なオープン記念イベントを開催します!～

～ 記者発表資料 ～



『小山ブランドの創生と発信』

小山の恵まれた自然や立地条件を活かし、高い技術で生産される農畜産物や商工芸品等を広くPRしていきます!

『都市と農村の交流』

コミュニティー施設、農村公園を活用し、都市と農村の交流を行います!

道の駅思川のシンボル

市の花の『思川桜』と、市の木の「シラカシ」、小山ブランドのハンドベルのモニュメント『思いの鐘』が皆様のお出でをお待ちしております。『思いの鐘』は定時にハンドベルの曲を奏でます。

開所式

日時 平成18年4月27日(木) 午前11時～

とちぎけん おやまし おおあざ しもこうづか

場所 栃木県小山市大字下国府塚 地先(国道50号沿い)

関係者による開所式を行います。

4月28日は、グランドオープンの準備を行います。

オープン

日時 平成18年4月29日(土) 午前10時～

道の駅『思川』のオープンを記念して、29日～5月7日のゴールデンウィーク期間中に様々なイベントを開催します!

4月29日 ・地域振興施設(小山物語館、レストラン等) テープカットを合図にオープン!

↳ ・小山評定館(押花展)

・ワイワイ広場(熱気球体験搭乗、フワフワで遊ぼう)

5月7日 ・特設ステージイベント(大正琴、よさこいおやま、フラダンス等)

他にも沢山のイベントをご用意してお待ちしております!

平成18年 4月25日

記者発表クラブ
栃木県政記者クラブ

お問い合わせ先

【地域振興施設関連】

小山市 農政課

課 長 わたなべ いちろう
渡辺 一郎

住 所 栃木県小山市中央町1-1-1

T E L 0285-22-9255

【上記以外】

国土交通省 宇都宮国道事務所

副 所 長 とくら けんじ
戸倉 健司
管理第二課長 きくち かずみ
菊地 一美

住 所 栃木県宇都宮市平松町504

T E L 028-638-2185

一般国道50号 道の駅『思川』

1. 概要

道の駅「思川」は、「小山ブランドの創生と発信」を基本コンセプトとして、小山市の豊かな自然と高い技術によって生産された産品をブランド化し、全国に発信する拠点施設として、また、ドライバーが安心して休憩できる施設として整備を図ってきました。

道の駅「思川」は平成16年度より事業に着手し、平成18年4月29日にオープンすることになりました。

2. 計画概要

事業内容

道の駅整備事業(直轄一体型)

所在地

栃木県小山市大字下国府塚 地先

事業着手年度

平成16年度

全体事業費

C = 約19億円

供用

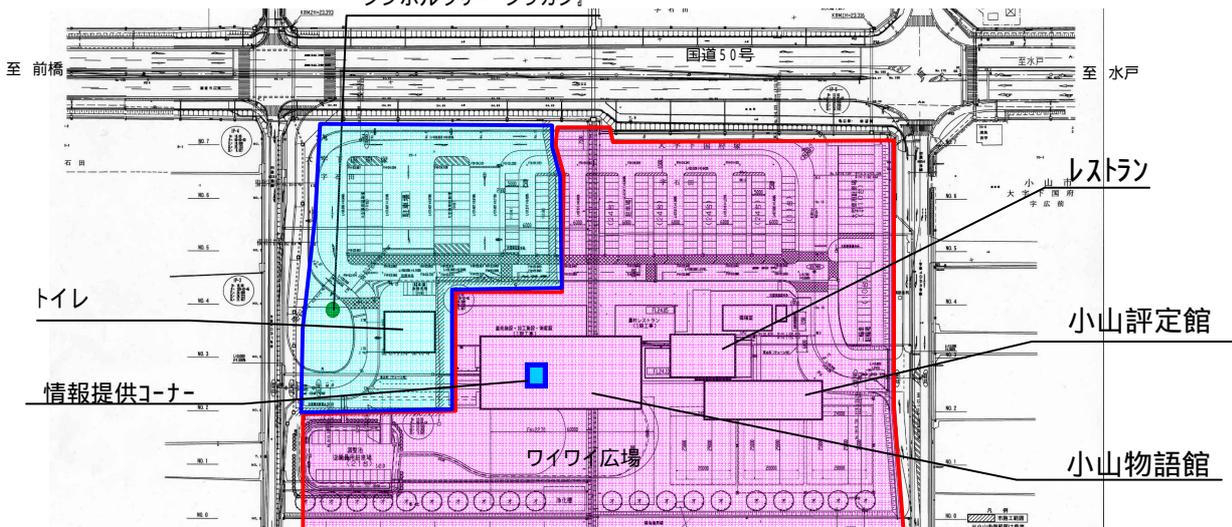
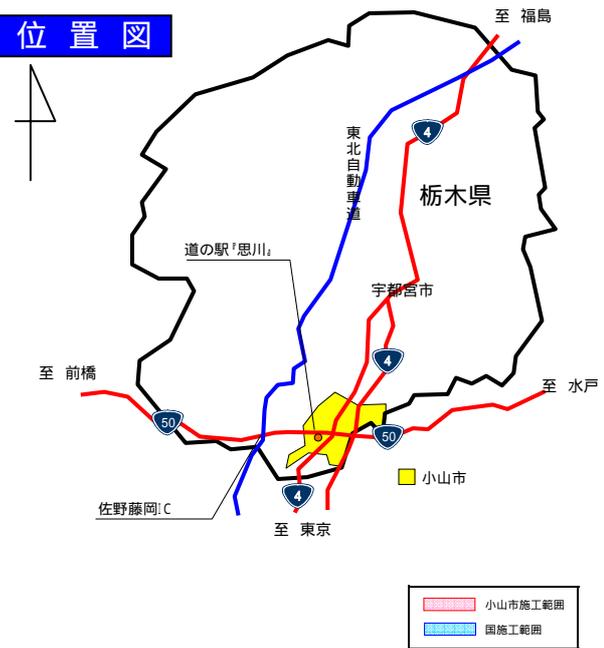
平成18年4月29日

平面図



シンボルツリー「シラカシ」

位置図



3. 施設概要

休憩施設

24時間安心して利用できます！

【駐車場】	大型車		29台	
	小型車		153台	
	身障者用		3台	
				計 185台
【トイレ】	男性用	大	4器	
		小	8器	
	女性用		12器	
		身障者用		2器
【公衆電話】			1台	

情報交流施設

お出かけの際に役に立つ道路情報や地域の情報はじめとする様々な情報が入手できます！

【大型ディスプレイ】	2台
【情報端末機】	1台

地域振興施設

『小山ブランド創生と発信』

恵まれた自然条件を活かし、高い技術で生産される農畜産物、特産品そして情報など、多彩なサービスで地域の皆様に愛される総合施設をめざします！

【小山物語館】(直売・物産・加工施設)

直売コーナー

地域の農家が生産した、安全・安心、新鮮な野菜やお米、花卉を販売します。

物産コーナー

高い技術によって生産された商工芸品を中心に販売します。

加工品コーナー

小山産の農畜産物を使った加工品を販売します。

(アイス) バニラ・古代米・とちおとめ・はとむぎ等のジェラート

(パン・饅頭) 米パン・バターロール・饅頭等

(惣菜) 小山いなり・小山コロッケ・大豆の五目煮・干瓢入りサラダ等

(漬物) 白菜キムチ・白菜浅漬け・キャベツのニンニク漬け等

(豆腐) 木綿豆腐・絹豆腐・油揚げ・やさいがんも等

(納豆) 納豆・麦納豆等

(ジャム) いちご・りんご・キウイ等

(ジュース) いちご・りんご等

【レストラン】

小山和牛や地元産の野菜を使った料理を提供します。

【小山評定館】(コミュニティ施設)

会議や研修、講演会・展示会などに利用できます。

【ワイワイ広場】

芝生と土の広場です。イベントやグラウンド・ゴルフ、ゲートボール、ミニ新幹線、バルーン搭乗などができます。

【郵便ポスト】

1基



開館前の小山物語館



写真はバルーン搭乗イベントのイメージです。

小山市概要

小山市は、市の中央を南流する母なる川「思川」や肥沃な農地等、「水と緑と大地」の豊かな自然環境に恵まれ、また、東京圏から60kmの新幹線が停車し、鉄道、国道の交錯する交通の要衝という優位な立地条件を生かし、農・工・商の調和のとれたまちとして発展しています。

平成17年には人口が16万人を突破し、宇都宮市に次ぐ県内第2位の都市となりました。

当市には歴史的に日本の運命を切り開き栄光の道筋を付けた史実があります。徳川家康は、慶長5年(1600年)、会津の上杉景勝討伐に向かう途上、小山に本陣を置きました。その時、石田三成拳兵の報が入り、家康は、「このまま上杉を討つべきか、反転西上し、石田を打つべきか」、本陣に諸将を招集し、軍議を開きました。これが世にいう「小山評定」です。家康に従う諸将は、豊臣家譜代が多い上に大阪に妻子を残してきており、その去就が家康にとっては興亡の境目でした。しかし遠州掛川城主の山内一豊の「居城を家康に差し出してまでも味方いたしません。」との強い建議が、豊臣恩顧の諸将の気持ちを動かし家康を救いました。家康は、この時の山内一豊の建議を「古来より最大の功名なり。」と賞しています。そして9月15日、関ヶ原に、東西両軍約20万の軍勢が相まみえ、天下分け目の戦いが繰り広げられましたが、結果は家康率いる東軍の勝利でした。東軍の結束が勝利をもたらしました。この結束をもたらしたのが「小山評定」でした。そして一豊は「小山評定」での「功名」により、戦後土佐一国の国持ち大名に立身出世し、夢を叶えました。まさしく当市は、栄光の道筋を付けた「開運のまち」と言える。

